



天より降る豆の辨

およそ非常の物の天より降る豆の昔も今も稀に有る豆あり其物に就て考ふれば決して怪むに足らざれども流俗の習ひ諛を好む者ハ嘉瑞と云ひ罵り痴呆なる者ハ災異と云ひ恐怖し種々の妄説を唱ふる豆ありさるる物學びざる人ハ苟且の豆やも心を用ひ物を格し理を窮めて惑を弁へしむくまん○今茲慶應元乙丑年閏五月下旬より六月の初まで天より豆の如き物を降らば豆數十度あり或時ハ風雨は随て降り或時ハ晴天風雲無くして此物の降る豆あり始て其物詳らば或ハ菩提樹の実ありと云ひ或ハギンマノの根に生ずる実ありと云諸説紛々たり然るも其実を精しく檢せしむ樟樹の属する豆疑ひ無し尚其證據を得んと欲せしむ偶東叡山多宝塔の邊に於てヤマクスの大樹ありて夥多の實を結ぶるを見し其樹下は落る者を見る所々は降る者と少くも異なる豆無し是に於て疑念氷解せり此樹ハ樟の類なり其處々自生の者少くハ蓋し其実將に熟せんともふ方にて曬霽の爲に巻上げられ所々は降る者多し其後晴天ハ降る者不至てい豆状頗る疑ふ可し恐らく狡獪の徒の所爲なるべし其樹既し知らるる上も実の落る豆何れを怪むに足らん依り其圖を刻し同社に領つ○附 唐土にも樹実の降る豆あり

其物詳らば依り月中の桂実ありんと

云ひ傳へ是は月桂の名を命ぜり豆本草綱目に見えたり其月桂ハ即ち天竺桂なり又西洋の記録を按ずると橡実。白屈菜の實等の降る例少くハ又今より六十二年

イスパニヤ國レオンと云

地より豆の如きもの一度は千二

百斤程降る豆あり是を食

は頗る美味なりと云窮

理家の説は是ハセンダイハギの類

の實ありと云



皮を去るの圖 実の圖

ヤマクス一名イヌクスヌアマクスとも云

蘭名 アリカーンセ ラウリール

東陽齋主人記